

## 2025 年度全国指導者養成担当者会議 Q&A

■会議全体や方針等に関する質問・意見・情報共有	
Q01	指導者資格は「選手指導における通行手形である」と掲げながら「資格を取得する魅力、そして保持していく事の魅力」を日本陸連として具体的なビジョンとテーマを掲げて欲しい。(千葉)
A	貴重なご意見として受け止める。各県での実情に対しては、それぞれ異なるため、引き続き各陸協の指導者養成担当者や JAAF エducator と連携して、改善を図っていきたい。
Q02	A 級・B 級・C 級コーチとで、それぞれ扱っている内容が変わらないのではないかと。(三重)
A	カリキュラムについては、必要に応じて随時アップデートを行っている。一方で、各資格の学びについては、同心円状にコーチの経験や知識をもとに広がる性質もある。そのため、テーマや講義名が同じでも、取り扱っている内容や学びの質が違うことをエドゥケーターや講師の方々には理解いただき、講習会の担当としてあたっていただきたい。
Q03	県内の多くの指導者が公認 A 級コーチをとるメリットがないと感じている。何かしらの権限を持たせないと、資格を取ろうとする人は出てこないと思う。それらが解決されないとコーチによるハラスメント被害等が起きる可能性がある。(島根)
A	部活動改革により学校教育から活動が地域へ展開されている世の中となっている。我々のコーチ資格は、高いインテグリティと専門的指導能力を備えた質の高い指導者であることの証明である。資格を持つコーチが子どもたちに対して、安心・安全な活動を提供できる存在であることを、社会に対してもしっかりと示していきたいと考える。 各県の指導者養成担当者や JAAF エドゥケーターの皆様とともに、現場にいる資格を持っていない指導者に対して、例えば 2027 年度からの本連盟の登録における団体成立条件が設定されるなど、社会が変わっていることや資格の重要性などについて、それぞれの立場で伝えていく必要があると考えている。引き続き皆様と連携し、環境整備を行っていきたい。
Q04	日本代表選手団のコーチや U20 オリンピック育成競技者研修会のコーチなど日本陸連の派遣事業において、資格を持っていない人もいると聞くが整備はされないのか。(三重)
	本連盟の強化委員会とも連携しており、委員のほとんどが取得済みである。まだ、資格を持っていない方も若干名いる(その多くが受講中)が取得していただくこととなっている。
Q05	本会議において、「手法」の議論も重要だが、今後は「なぜコーチを増やすのか。」「よりよいコーチとは何か。」など、本質的な問いに向き合う場が重要だと考える。各県が抱える個別の課題解決にとどまらず、指導者同士が自身の考えを共有し、多様な価値観とすり合わせをするような研修やプログラムの開催を期待している。(山梨)
A	建設的な意見・要望に感謝する。今後、エドゥケーターに対して、講習内容のアップデート事項を共有したり、コーチ養成者としてのスキルアップを図りたいと考える。そのうえで、エドゥケーターそれぞれの個性を活かしながら、各都道府県の実態に合った指導者養成の推進ができるような研修会を検討していきたい。また、今後の本会議についても、それらに答えられるプログラムとしたい。
Q06	本県では、2027 年度以降、各団体代表者等が C 級コーチしか所有していない場合は、その後 2 年間で B 級コーチにステップアップしていただくよう理事会で決定し、各団体に通知していく。(新潟)
A	貴陸協での取り組みに関して、情報提供を感謝する。
Q07	今回、ご説明いただいた日本陸連の D&I については、各陸協において同様の研修等を実施すべきか。また、人権ポリシーやインテグリティ行動指針をホームページ等へ掲載するとともに、各陸協で実施している取り組みがあれば発信したほうが良いのかなどについて、考えを伺いたい。(東京)

A	<p>各陸協におかれましては、D&amp;Iに関する研修等の実施をぜひ検討いただきたいと思っている。また、「JAAF 人権ポリシー」および「JAAF インテグリティ行動指針」は、2025年8月に制定・公表した。これらを策定して終わりとするのではなく、より多くの方々に身近に感じていただけるよう、継続的に周知活動を行っている。ついては、各陸協のWEBサイト等での紹介に協力いただくとともに、各陸協において実施されている取り組みがあれば、ぜひ積極的に情報発信していただきたい。</p> <p>また、各陸協の実状に適合する独自のポリシーや行動指針の策定を行うなどのアクションがあれば、日本陸連としても可能な限り協力していきたいと考えている。</p>
<p><b>■エドゥケーター養成や講習会の運営支援に関して</b></p>	
Q09	<p>エドゥケータースキルアップ研修はいつ頃を考えているか。また、形式は集合か。(宮崎)</p>
A	<p>すでに認定されているエドゥケーターを対象としたスキルアップ研修会については、開催時期・形式について、検討中である。4月上旬ごろに決定し、連絡をする予定である。</p>
Q10	<p>エドゥケーター新規養成講習会の具体的な日程について、早めにお知らせいただきたい。告知がぎりぎりとなると、推薦したい方が直前で調整できない状況が出てくる可能性がある。(長崎)</p>
A	<p>会議内でもご説明した通り、エドゥケーターの新規養成講習については、2027年2月に開催を予定している。詳細については、決定次第、速やかに各陸協の担当者へ連絡する。</p>
Q11	<p>B級コーチ・C級コーチともに受講者から、JSPO 共通科目に関する免除申請等の問い合わせが増えてきている。エドゥケーターとしてすぐに返答ができるようなスキルアップ研修等も必要だと感じる。(新潟)</p>
A	<p>認定されているエドゥケーター対象のスキルアップ研修には、事務的なことよりも、講習内容のアップデート情報の確認やコーチ養成者としてのスキル(ファシリテーション・コーチング・プレゼンテーションなど)を磨くことを目的とした内容を重視して行う予定である。そのため、当該研修へ組み込むか否かについては、他のプログラムとの兼ね合いにより優先順位を検討することについてご了承いただきたい。</p> <p>一方で、事務的な手続きについては、エドゥケーターや担当者にとって必要な情報であるため、2026年4月3日に予定している「JAAF コーチ資格養成講習会 会場担当者説明会」で取り扱う。</p> <p>また、各資格講習会の受講者への案内として、本連盟オフィシャルサイト等でも、情報が確認しやすくなるようJSPO 公式サイトへリンクを設けるなど対応を考えたい。</p>
Q12	<p>エドゥケーターの更新のための条件として設定されている指導者養成事業とは、B級やC級コーチも含まれるのか。(愛媛)</p>
A	<p>JAAF エドゥケーターとしての認定期間は、ご認識の通り2年間としている。また、継続条件については、認定期間中にJAAF 公認コーチ資格(A級、B級、C級のいずれか)養成講習会や更新研修を担当すること及び会場担当者説明会等に参加することが必要となる。</p> <p>しかしながら、JAAF エドゥケーターの配置がすべての都道府県に完了していないことなどから、当初の計画から状況が変化している。そのため、改めて認定や継続の条件設定を整理し、提示していく必要があると考えている。詳細について、決定次第、連絡する。</p>
<p><b>■各コーチ資格養成講習会に関して</b></p>	
Q13	<p>A級コーチ公募導入には反対。その指導者の実績・資質や人間性をよく分かっているのは各陸協である。各県で評判の良くない指導者がA級コーチとなると資格そのものの格が下がってしまう。公募するよりも各陸協で推薦できる指導者がいるならば、その数を優先するべきだと思う。(大阪)</p>

A	<p>貴重なご意見として受け止める。学びたいと考える指導者がキャリアアップできない状況が続くことも課題として考え、今回の公募を取り入れることの判断に至っている。</p> <p>ご指摘の A 級コーチ保有者の質が下がらぬよう入口や出口での管理は必要と考える。入口では、自己推薦とはならないよう、提出書類については第三者による推薦を必要とする予定である。当然、指導実績の一つとして確認する「役割」についても、各陸協の中での役割等がある場合はその順位は高くなることを想定している。</p> <p>加えて各陸協に対して、当該指導者の活動状況等を確認することも検討している。</p> <p>一方で、出口においては本連盟及び日本スポーツ協会において基準に達しない指導者については未修了の判定をする。これら両方が機能することで質の担保を図っていきたい。</p>
Q14	A 級コーチを公募にすると、資格を営利目的でとることも認めるといふことか。(岡山)
A	<p>営利、非営利にかかわらず、全ての指導者にコーチ資格を持って活動に当たっていただきたいと考える。本連盟が認定する資格は、それぞれ必要なカリキュラムを受講し、インテグリティや指導に必要な知識や手法について、基準を超えたものに対して修了の判定を出している。そのため、受講条件を満たした方については、推薦・応募いただくことは可能である。</p>
Q15	A 級コーチの各陸協に割り振られた推薦枠は男女が同数と言った縛りがあったが、公募についてはどうなるのか。(長野)
A	<p>各陸協からの推薦枠については、従来のまま最大 4 枠(女性を 2 名以上含む場合)から変更はない。一方で、全体数に空きがある場合に採用される次点となる候補者枠(男性 1 名、女性 1 名の最大 2 名)については、公募導入につき廃止とする。</p>
Q16	県内で受講の順番待ちが多く存在する。県推薦と公募と両方応募すればよいのか。(長野)
A	<p>各陸協からの推薦は条件を満たしていたら、そのまま受講者として内定していく予定である。上記 Q15 記載の枠を超えての応募を希望する場合には、受講希望者本人による応募をいただくこととなる。</p>
Q17	<p>B 級コーチ養成講習会では、原則 A 級コーチ資格保有者が講師を務めることとしているが、自県では、講師選定が課題となっている。また、交通費や宿泊費等費用面の課題は承知しているが中止を含め講習を開催できない場合、受講者やエドゥケーターにとって機会を失うこととなる。近県の A 級コーチやエドゥケーターとの公のネットワークなど構築し、一定の目途に達するまでフォロー体制を作っていただきたい。(富山)</p>
A	<p>現状、B 級コーチの講師については、B 級以上のコーチ資格で担当が可能。</p> <p>また、他県のエドゥケーターとの連携については、日本陸連の指導者養成課に相談いただければ、対象となるエドゥケーターと繋ぐことが可能である。開催準備や講師調整等について JAAF 指導者講習会連絡窓口や指導者養成課へ気軽にご相談いただきたい。</p>
Q18	今後も B 級コーチは C 級コーチを持っていなくても取得できるのか？(長野、三重)
A	<p>現状、そのような条件は設定していない。しかし、B 級の講習内容としては C 級のレベルの内容を理解していないと理解できないため、専門学部での教育を受けていない方や、陸上経験、指導経験の浅い方については C 級から受けていただくことが望ましい。今後、講習会の告知等をしていく際には、受講を希望される方がわかりやすいような受講フローを心掛けたい。</p>

※本 Q&A は会議中に口頭およびチャットで寄せられた質問・意見等について整理したものである。

※本会議において、「日清食品カップ 全国小学生陸上競技交流大会」に関して、寄せられた質問については、担当部署より別途メールにて各県の担当者へ回答している。